

経営比較分析表（令和元年度決算）

静岡県 森町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ² 当たり家賃料(円)	
-	72.55	89.42	2,178	

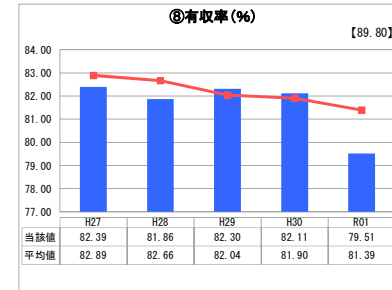
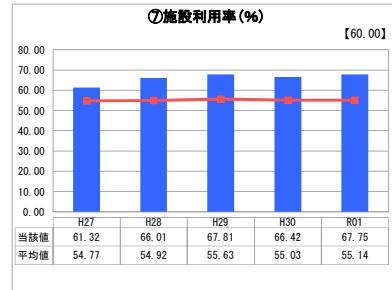
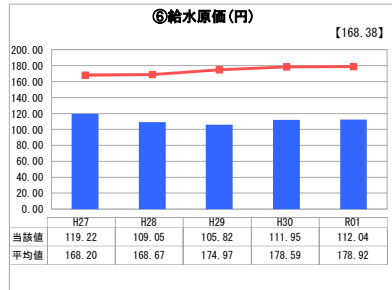
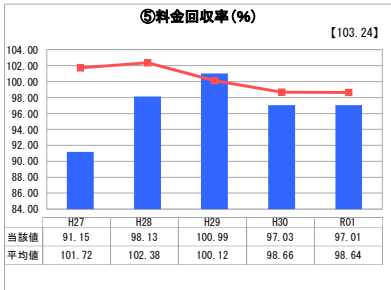
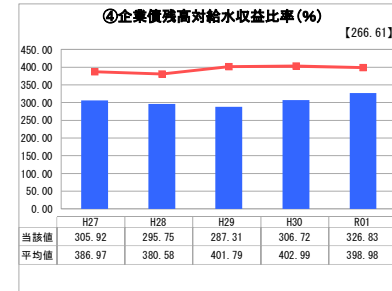
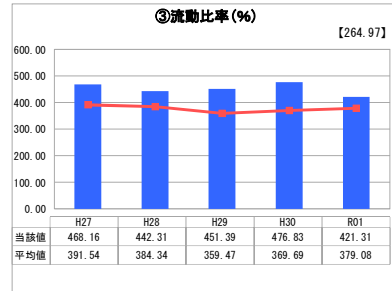
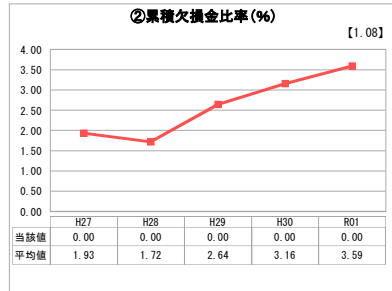
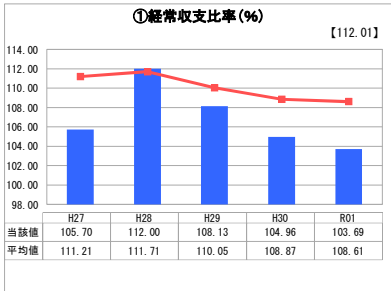
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,243	133.91	136.23
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
16,223	29.20	555.58

グラフ凡例

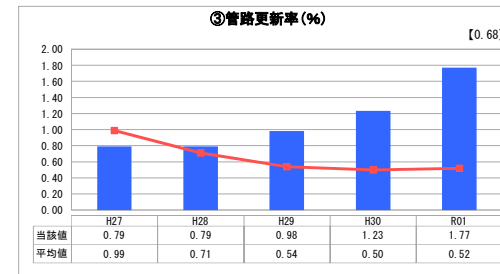
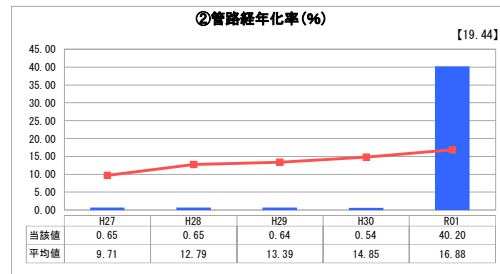
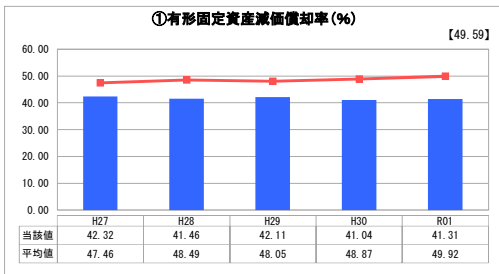
- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)

【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常損益における収益面においては、給水人口減少等により給水収益が微減しており、経常収益全体としてはほぼ横ばいになっている。一方で、法定耐用年数を超えた管路の更新を積極的に行ったことで減価償却費が増加し、経常収支比率は下降した。そうした取組の中でもなお有収率は低下しており、引き続き漏水の多い箇所を優先的に管路更新していくことで、有収率の改善を図りたい。近年では料金回収率が100%を下回ることも多く、経営戦略に沿った持続可能な経営を目指すためにも、次年度より審議会を設置し、料金改定を含めた検討を行っていく見込である。

2. 老朽化の状況について

当水道事業は昭和49年に認可を受け、昭和54年から事業を開始している。事業開始時に取得した管路が法定耐用年数に達する令和元年度に、40%を超えることとなった。今後5年間はこうした経年管の発生が大きく出るが、現在アセットマネジメントに基づく更新需要を、年間工事費約2億円のペースで消化しており、それが③の更新率の高さにつながっている。今後も管路更新計画に基づく重要管路の耐震化を重点的に行いつつ、計画的な管路更新に努める。管路更新率は報告数値に誤りがあり、平成28年度2.03である。事業の繰越があった平成27年度を除いて類似団体平均を上回っている。今後も更新需要の高まりを見据えて、事業費を平準化しながら計画的に更新する必要がある。

全体総括

当町の人口は減少傾向であり、それに伴い給水人口も減少している。給水収益は町内最終処分場の利用期間延長が見込まれる見通しであり、令和8年までの利益については一定の担保が得られているが、長期的には減少が予想される。一方で、事業創設時に整備した管路や施設に対する更新は今後も続き、事業費が増加することが見込まれる。また、配水池の増設等も今後予定されていることから、将来にわたって安定的に事業を継続していくためにも、アセットマネジメントの結果や経営戦略に基づき、次年度より更新需要を踏まえた料金の適正化について検討し、合わせて費用の節減に取り組んでいく。